

2007年7月14日

## 2007 KATE (韓国英語教育学会) 大会 参加報告書

堀部秀雄 (広島工業大学)  
(JACET 国際交流委員 KATE 副担当)

この度 JACET の代表として、上記の大会に参加いたしましたので、ご報告申し上げます。

日時：2007年6月6日(金)、7日(土) (私は5日に現地到着、8日に帰朝)

場所：京仁教育大学校 (ソウル郊外)  
(私はソウル大学のゲストハウスに宿泊。会場まで車で20分程度)

大会テーマ：Embracing Diversities and Pursuing Professional Integrity in TEFL

参加者：250名から300名(学会副会長の推定) ほとんどは大学教員だが、  
中学高校の教員も参加。

総発表件数：約90件

概要：

“Embracing Diversity”というテーマに即して、World Englishes という用語に代表される英語の言語的多様性ととも、英語話者とその文化およびアイデンティティの多様性に関する発表が多く取り上げられている。

Plenary Session:

- ・ Diversity in Language, Culture and Speakerhood in the Context of Globalization (Adrian Holliday)
- ・ Identity and English Language Learning (Bonny Norton)
- ・ Variation in World Englishes: Implications for ELT (Andrew Kirkpatrick)
- ・ The Place of Culture in Teaching English as an International Language (Hideo Horibe)

Concurrent Plenary Speech

- ・ Analysis of F0 Contour of English Sentences Uttered by Korean Ethnic

Students (Yingho Li & Xianri Zheng)  
• World Englishes: The Empowering Syllabus for College Students  
(Rosa Jinyoung Shim)

Paper Session のテーマ:

World Englishes/ Language Policy, Teacher Education, Corpus, CALL, SLA, Methodology, Vocabulary, Testing, Strategies, Affective Factors, Writing and Business English

(プログラムの詳細は <http://www.kate.or.kr> にて閲覧可能。また私の proceedings は別添)

感想および印象に残った事柄:

- 1) Holliday 教授のスピーチの後、一人の韓国人研究者が「NNS の英語、特に韓国人の英語が 1 つの variety として確立され受け入れられていくことの困難さ」について語られ、Holliday 教授が「たやすいことではないが、『受け入れられるか』というような受動的な問題ではなく、NNS が英語をどう使いこなそうとするかという姿勢の問題だ」と強調されたのがとても印象に残っている。
- 2) 発表者はアブストラクトとは別に 6 ページ程の proceedings の提出が要求され、これが全て大会要綱に掲載されるので、要綱は 600 ページほどの分厚いものになっている。
- 3) 発表は 95% 以上が英語によるものである。
- 4) Paper sessions はテーマごとに時間帯と部屋がまとめられており、参加者が選びやすいように工夫されている。
- 5) 土曜日は中等教育の教員の参加が増えるということで、大学英語教育に関する発表は主に金曜日に、その他が土曜日に多く組まれている。
- 6) 今回の会場となった京仁教育大学校はやや交通の便が悪く、それが参加者数にやや影響したようだ。
- 7) "Korean hospitality" という言葉もあるように、概して韓国人は来客を丁重にもてなすことで知られているが、今回私も到着時の出迎えから、食事会、晩餐会をなどで大変歓待していただいた。感謝に堪えない。

JACET・KATE の交流促進について:

2 日間を通して多くの KATE 会員と積極的に情報交換をして交流につとめたつもりであるが、特に今後の交流促進のために、2008 年の KATE あるいは JACET の年次大会での「日韓英語教育政策の徹底比較」をテーマにしたシンポジウムの開催を呼びかけてみた(詳細は別添)。幸い KATE の副会長で、来年度の釜山での大会の委員長を勤められる Park Mae-Ran 先生が大いに賛同して下さい、

すでに本大会の最後に開かれた準備委員会でこの計画を提案し、大多数の賛成を得たとの連絡をいただいている。まずは KATE 大会での実現に向けて努力したい。さらにはこのようなシンポジウムが JACET でも行われ、また ETA-ROC 等とも連携して東アジア全体を視野にいれた企画が展開されれば、より有意義な交流になっていくのではないかと思われる。